

ちよつと考えてみよう!
[わたしのものさし](○△×)

- 1 駅に車イスの設備がないのはしかたがないと思う。
- 2 点字ブロック上の自転車は、行政が撤去すべきだと思う。
- 3 採用面接時に出身地を聞くことはルール違反だと思う。
- 4 親が子どもの結婚相手の身元を調べるのは自然だと思う。
- 5 家族の同意があつてこそ幸せな結婚ができると思う。
- 6 日本の習慣に合わせるよう外国人も努力すべきだと思う。
- 7 外国人に部屋を貸したくない大家さんの気持ちも分かる。
- 8 外国人向けの標示や案内をもっと設置すべきだと思う。
- 9 老後の生活は自己責任だと思う。
- 10 女子が男子といっしょに野球をするのは違和感がある。
- 11 お茶の用意を女性がしがちなのはおかしいと思う。
- 12 家事の分担は家庭によって様々でいいと思う。
- 13 場合によっては我が子に手をあげることも必要だと思う。
- 14 電車内には妊婦や高齢者専用の座席を用意すべきだと思う。
- 15 最近の若者のマナーはなつてないと思う。

これらのことは、話し合いのための資料です。

なにが○・△・×なのか答えはありません。

いろいろな考えを出し合つて人権感覚を磨いていただけたらと思います。

あらゆる差別のない明るい社会を築いていくためには、

私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中で人権感覚を磨いていく必要があります。

亀山市文化部共生社会推進室 (〒519-0195 亀山市本丸町577 Tel 0595-84-5066)

人権が尊重される明るい社会

みんなで築こう 人権の世紀

考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心



関小学校2年 大萩 玲奈さん



井田川小学校3年 水上 絢葉さん



川崎小学校2年 藤川 聖菜さん



亀山中学校3年 糸川 章吾さん



関中学校3年 中文香さん



白川小学校5年 日高 壯太さん

ヒューマンフェスタin亀山



2012年12月8日(土)、亀山西小学校体育館において、「第8回ヒューマンフェスタin亀山」を開催しました。約300名の方にご来場いただき、大変盛り上がりました。

午前11時30分に開場し、体育館の広いスペースを使い、ワンフロアで様々なブースやイベントを楽しんでい

ただけるようにしました。亀山みそ焼きうどん・手作りパン等の軽食販売、K-LMCバンドによる演奏、徳風高等学校からはネイルアートやセラピー犬とのふれあいブース、市内小中学生による人権習字やポスターの展示、各種活動団体による活動報告ブース、缶バッジ作りなどに亀山高等学校の人権サークル「フレンドリークラブ」の活動発表を加え、さらにパワーアップし盛りだくさんの内容となりました。午後1時からは開会式のあと、中学生による人権作文『「思いやり」という気持ち』の発表、高校生2名による人権スピーチ、各ブース紹介、竹中ナミさんによる「ユニバーサル社会の実現をめざして～ナミねえの元気の出る話～」と題した講演会を行いました。

中学生の作文は、普段は気付かないが知らず知らずのうちに人を傷つけ、差別



してしまっていることがあり、「思いやり」を持つことと「勇気」を出して行動することの大切さを考えさせられました。高校生2名のスピーチは、それぞれが自身のいじめ体験についてや「フレンドリークラブ」に入ってから感じたこと、「仲間」に対する思いなどを熱く語り、胸を打つ内容となりました。竹中さんの講演会は、重度障がいを持った娘を授かったことにより生き方・考え方が変わったこと、「チャレンジド(challenged)」という呼称への思いやプロップ・ステーションを立ち上げた経緯など経験を踏まえた話は具体的で大変わかりやすく、多くの方が聞き入っていました。そして、とってもパワフルで「強い心臓と口」で仲間とともにどんどん道を切り開いてきた竹中さんの前向きな講演は、あっという間の1時間30分で、聴くだけで元気をもらいました。講演後も竹中さんは熱心に各ブースを回られ、ヒューマンフェスタを堪能されていました。



ヒューマンフェスタin亀山は様々な団体が参加し、素晴らしい講師による講演を行い、人権感覚を磨く良い機会となっています。皆様のご参加をお待ちしております。



竹中ナミさん

おばあさんのテーブル

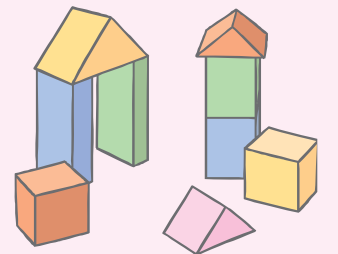
あるところに、身体の弱いおばあさんがいました。
だんなさんが亡くなってしまったので、おばあさんは、子ども夫婦と孫娘と一緒に暮らすことになりました。

おばあさんの目は、日に日に悪くなり、耳もどんどん遠くなっていきました。
手が震えて夕食のときに豆がスプーンから転がり落ちたり、スープがお皿からこぼれたりすることもありました。
子ども夫婦は、おばあさんが食卓の上に食事をこぼすのをとても嫌がりました。
ある日、おばあさんが、ミルクのコップを倒してしまうと、もう我慢できなくなったのです。

子ども夫婦は、部屋の隅に小さなテーブルを置きました。
その日から、おばあさんは、そこで食事をしなければならなくなりました。
ひとりぼっちでテーブルにつくと、おばあさんは目にいっぱい涙をためて、部屋のまん中にいる家族をながめていました。

子ども夫婦は食事をしながら、ときどきおばあさんに声をかけましたが、そのほとんどは、おわんやフォークを落としたことへの文句でした。

ある日、夕食前に床の上で、孫娘が積み木遊びをしていました。
子ども夫婦が、娘に何をつくっているのかと尋ねると、孫娘は「お父さんとお母さんのための小さなテーブルを作っているの」と言ってニッコリとほほ笑みました。



「私が大きくなったとき、お父さんは、このテーブルを使って部屋のすみでご飯を食べるのよ」

子ども夫婦はしばらくの間、娘を見つめていましたが、突然声をあげて泣き出してしまいました。
その夜、二人は、おばあさんを大きなテーブルに呼び戻しました。
それ以来、家族一緒に食事をするようになり、ときどきおばあさんが物をこぼしそうになると、手を添えるようになったということです。

(「グリム童話」より)

このお話を読んでどのように感じましたか？ 私たちの社会、くらし、日常的な人間関係などを「人権」という点で捉え、身近なこととして、共に学んでいきましょう。

2012年度「人権」に関する絵画・ポスター募集へのご応募ありがとうございました。



平成24年の夏に募集いたしましたところ、今年度もたくさんのご応募をいただきました。

作品は12月の「第8回ヒューマンフェスタin亀山」で展示しました。多くの方に見ていただくことができ、人権啓発に大きな効果がありました。

来年度もたくさんのご応募をお待ちしております。